
大学における オープンアクセス戦略

引原隆士

京都大学図書館機構長・附属図書館長

京都大学工学研究科

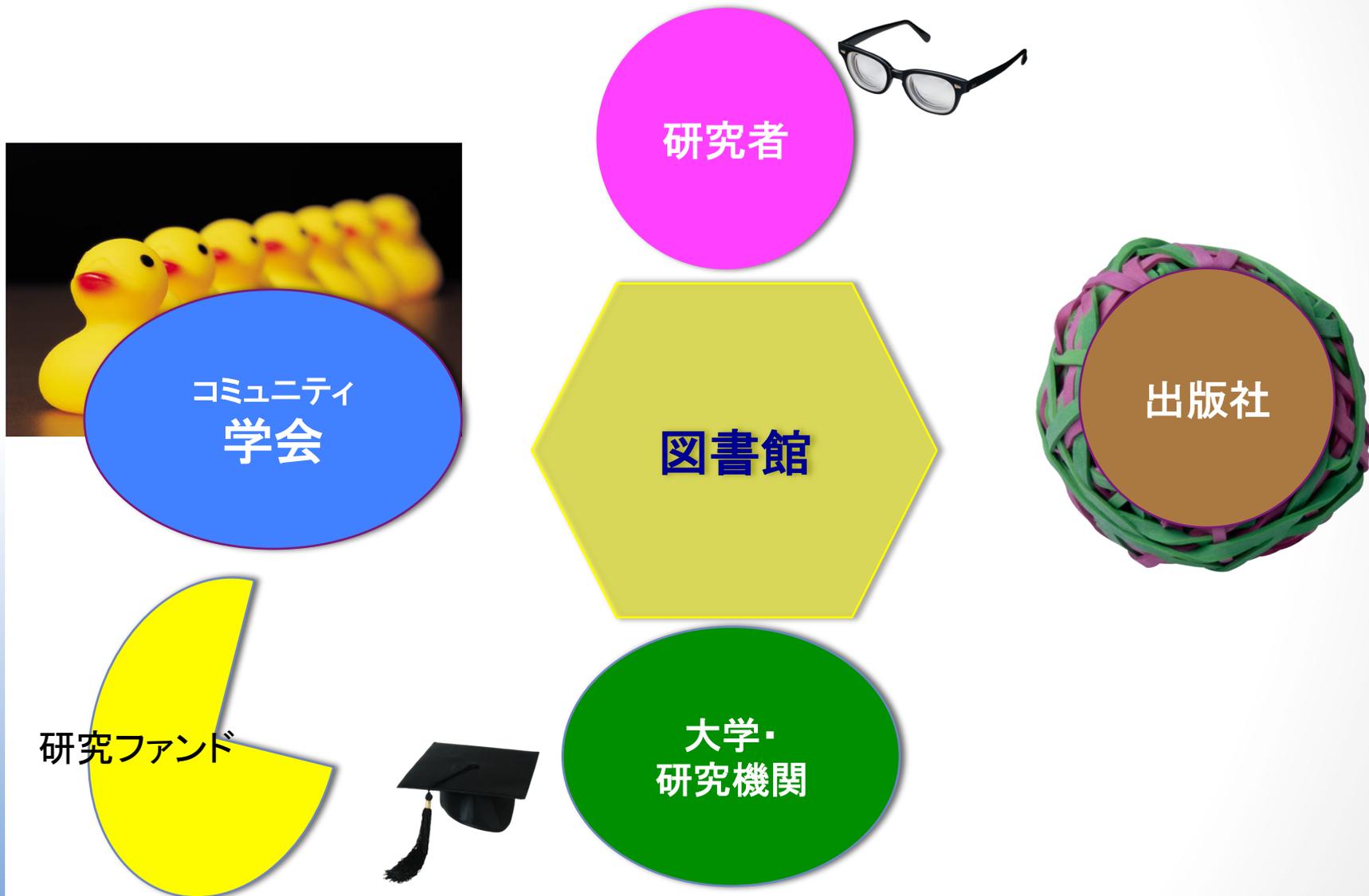


内容の概要

- ステークホルダーの定義
- 研究者のオープンアクセスへの認識
- 大手出版社の動き
- コミュニティ（学会等）の動き
- 論文誌が直面する課題
- オープンアクセスの目指すべきもの
- 大学の戦略



オープンアクセスにおける ステークホルダーの定義



ステークホルダーの現状把握



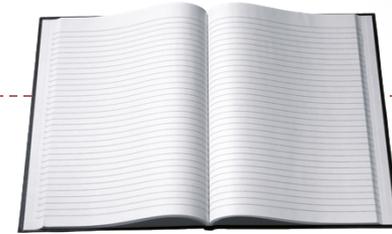
研究者のオープンアクセス認識（順不同）

- ✓ 全く知らないレベル
- ✓ 意識していないレベル
- ✓ 論文が無料公開されるという理解レベル
- ✓ 自分の論文投稿の経費が気になるレベル
- ✓ 論文投稿への出版費用に反発するレベル
- ✓ リポジトリ（グリーン）で積極的に公開するレベル
- ✓ 研究助成から要求されて行動するレベル
- ✓ 出版社（ゴールド）で積極的に公開するレベル
- ✓ オープンアクセスに積極的に関与するレベル



根本として研究者は自己保身的である

大手出版社の動き



- 研究論文の取り込み完了
- 研究者心理の誘導完了
- 研究者コミュニティ（学会）の取り込みor壊滅完了
- 冊子体から電子ジャーナルへの変換完了
- パッケージへの移行完了



- 研究者への新しい興味を誘導！
- 研究データの取り込み開始（隙を見て）！
- データベースとの抱合わせで大学の執行部の取込み！
- 大学への研究戦略の提案事業！
- パッケージ解体に対する研究戦略の喪失への脅迫！



コミュニティ（学会等）の動き

- 研究グループ毎のコミュニティ
- 学会事務センターの崩壊の問題(2004)

- 和文論文誌（紙媒体）. 英文論文誌が未刊行
- Index未登録への焦燥
- インパクトファクターで論文価値喪失
- 論文数の激減
- 論文別刷代金による出版モデルの崩壊
- 大手海外出版社に著作権の譲渡

- 論文の海外データベースへの売渡し
- 編集ルールのグローバル化
- オンラインジャーナル刊行（会員限定）
- 独自データベース（会員限定）
- 負担軽減：J-Stageへの移行（助成団体の参入）



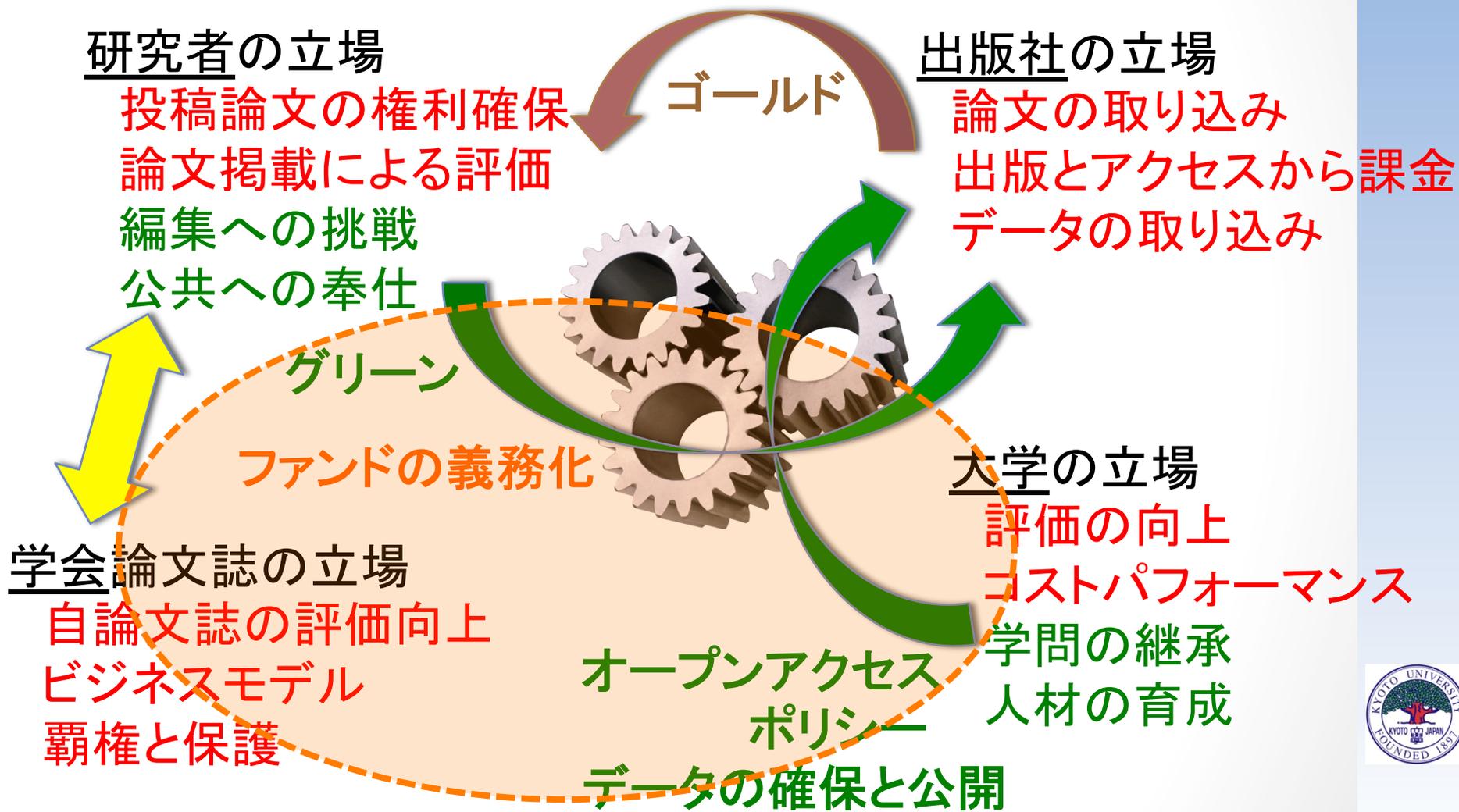
論文誌が直面する課題



- 同人誌化する学会論文
- Peer-Review という**権威(信頼性/公正性/有効性)**
- 多量の低レベル論文の投稿による**編集プロセスの崩壊**
- 査読者の査読**能力の欠如**
- 編集委員の拡大による論文へのバイパスの発生
- Editorによる自己論文のための論文誌化多発
- 編集委員による**不透明な論文処理(操作)**
- 自論文誌からの引用**論文の強制**
- **偏差値化**したImpact Factor
- 論文誌全体のレベル低下
- Open Peer Review と arXiv



オープンアクセスが目指すべきもの : ステークホルダーの思惑と可能性



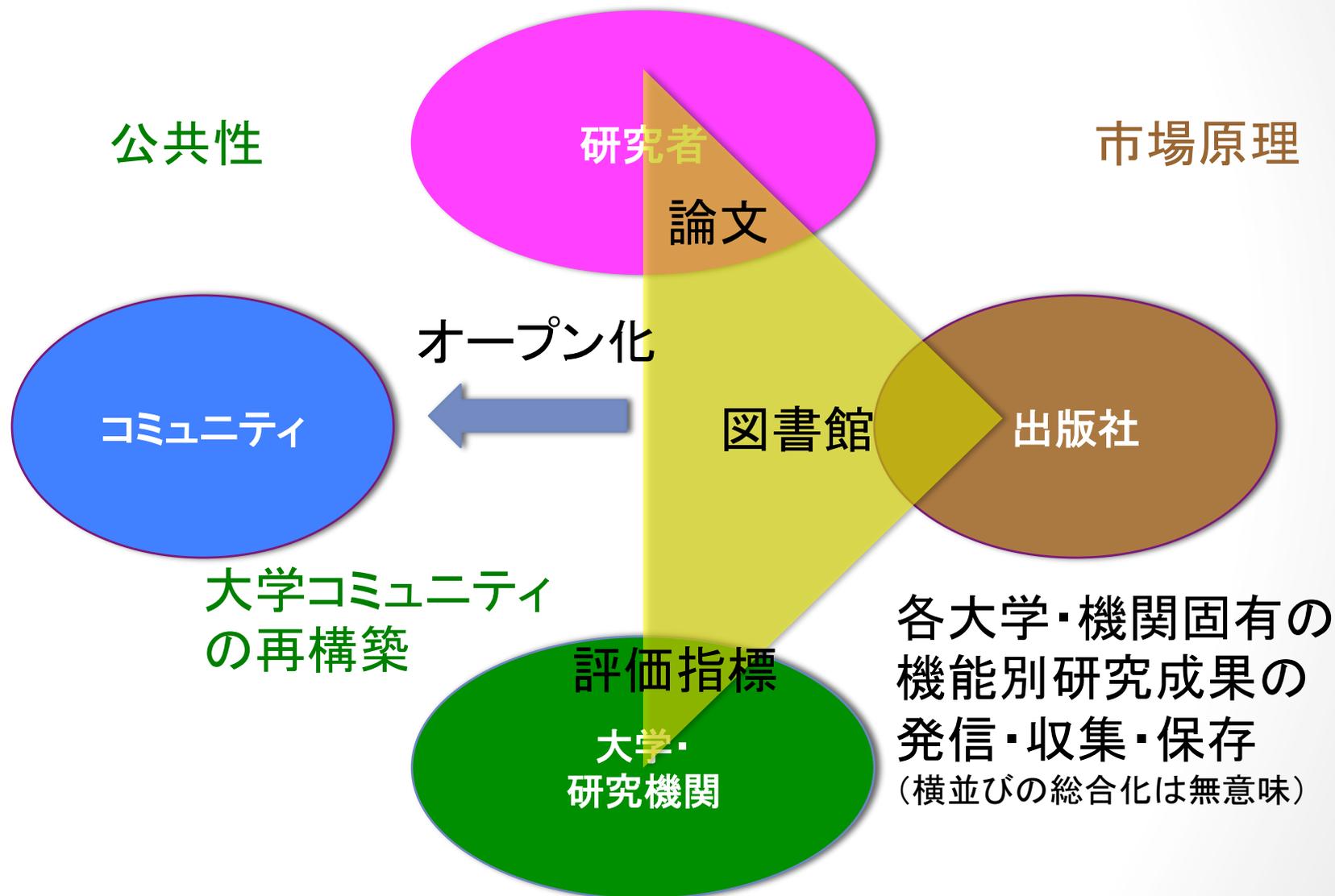
大学／機関の現状から

	大学	出版社・他
研究者	有	無
研究資源	有	無
流通システム	発信(限定)	発信 (データベース)
権威の認識	教育・研究	編集システム
Peer Review	所有	依頼

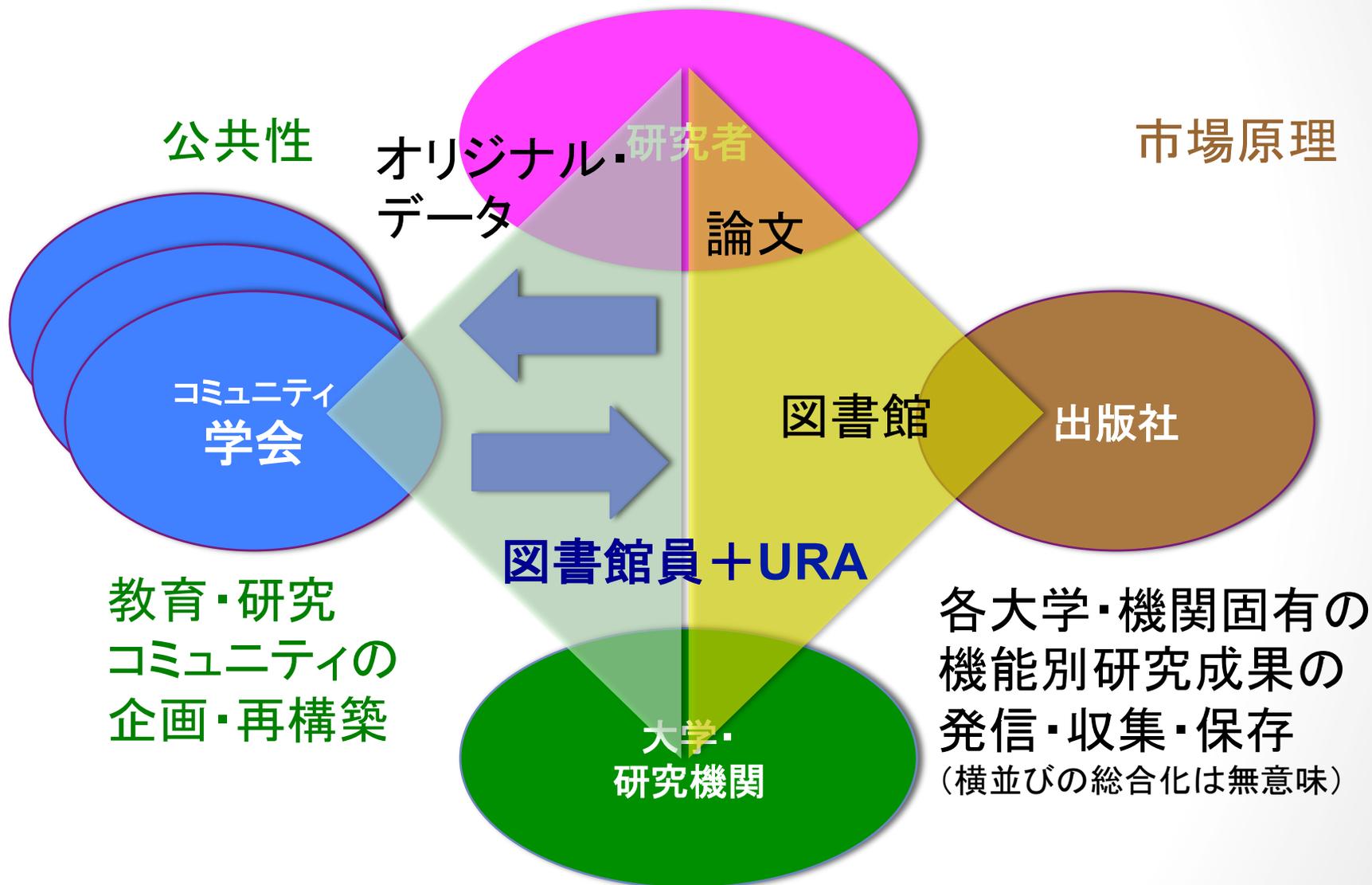
- ◆大学／機関における知のコミュニティの再構築
- ◆オープンサイエンスによる新しいフェーズへの移行

オープンアクセス論文の権威を認める認識はない

図書館の立ち位置（現状）



図書館の立ち位置（方向性）



オープンアクセスの戦略に向けて



オープンアクセスの基本的視点

- 研究者がどうしたいか
- 誰のための研究か
- 大学／機関は何ができるか

- オープン化によって守ること
- オープン化により構築すること
- オープン化によって改革すること

引原隆士, 学術研究成果のジャーナル出版とオープン化,
IEICE Fundamentals Review, Vol.8, No.2, 72-74(2014).



米国の大学の例 (RU11調査: CalTech, UCLA)

研究費によって学内研究者が生産した研究成果物については、非・排他的な形で著作権を大学が有することを定める

Opt-out形式

出版社との交渉や学内研究者への説得のために、著作権等法律のバックグラウンドを有する専任のライブラリアンを雇用



CalTech: 研究データの保存と公開に関する費用負担



UCLA: DMP Tool”という研究データの管理計画の作成を支援するオンラインアプリケーションをCDLが開発



カリフォルニア大学 オープンアクセス・ポリシー

<UC Open Access Policy>

July 24, 2013

<http://osc.universityofcalifornia.edu/open-access-policy/>

- *The policy proposed in July 2012 was revised based on feedback received from around the UC system before it was adopted by the Academic Senate in August of 2013.*
- *Nearly 200 publishers contacted by UC about the policy adopted by its faculty in August 2013. Find information about agreements reached with publishers and data about waivers requested since the policy's adoption.*



大学の戦略への一歩

1st Open dissertation

Repository

2nd Public availability
Open access policy
Open data storage

**Original submission
Data archiver**

3rd Re-construct communities
In field
Inter universities
Interdisciplinary fields

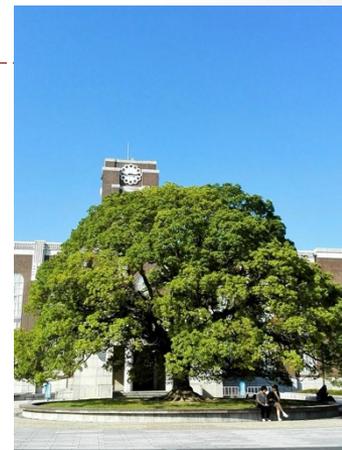
**Direct and indirect
connections through
bibliography and
program**



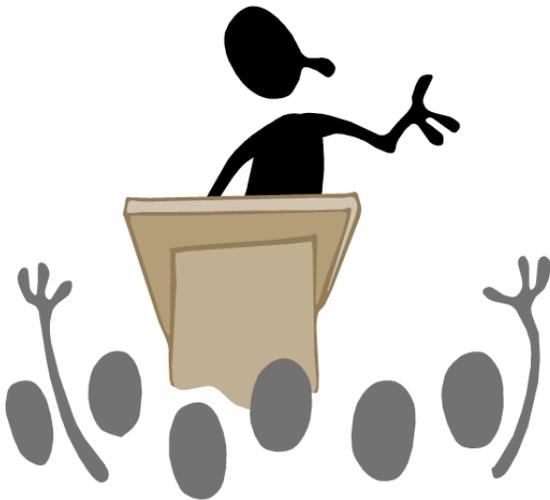
おわりに

オープンアクセスで変えるべきこと

- 学術情報の生産者，利用者，機関の関係
コミュニティの再構築
- 流通システムによる経済論理の排除
クローズドなシステムの存在意義の検証
- 共通のオープン化された良質の学術情報の提供
研究者の研究レベルの底上げ
- 日本語（非英語）の学術情報の提供
多言語システムの確立と質の確保
- グローバルな研究課題への転換（文理融合）
論文の数，indexなどの無意味な評価の排除



Open access !



データ

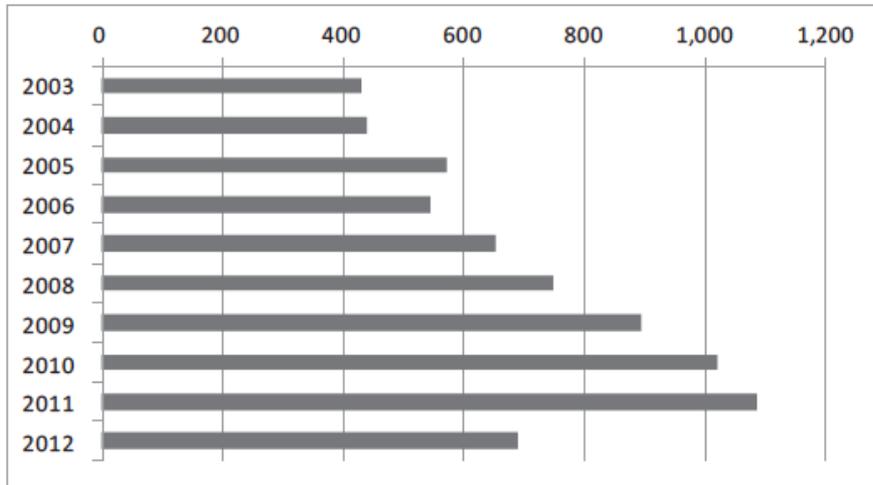


図 1 オープンアクセスジャーナルの年次別創刊数

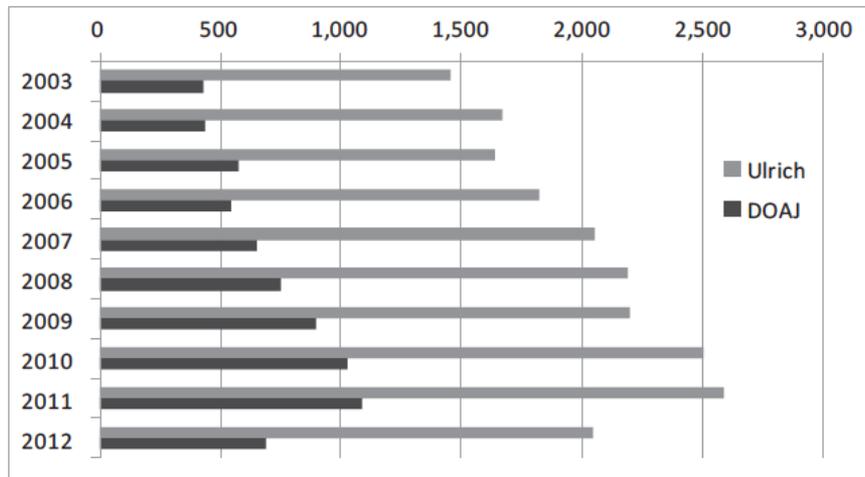


図 2-1 学術雑誌の創刊年タイトル数²⁷

国立大学図書館協会
 学術情報委員会
 学術情報流通検討小委員会
 平成25年度調査報告
 「オープンアクセスジャーナルと
 学術論文刊行の現状
 ー論文データベースによる調査ー」

